



2018年3月期第1四半期 決算説明会

2017年8月2日

カシオ計算機株式会社

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2018年3月期 第1四半期連結決算概況

1

単位:億円

連結	'16/1Q 実績	'17/1Q 実績	前年比
売上高	743	698	94%
営業利益	71	66	92%
利益率	9.6%	9.4%	
経常利益	25	58	230%
当期純利益	24	42	174%
1株利益(円)	9.38	16.97	

セグメント別実績 売上・営業利益

2

単位:億円

連結		'16/1Q 実績	'17/1Q 実績	前年比
売上高	コンシューマ	638	598	94%
	システム	86	82	95%
	その他	19	18	96%
	合計	743	698	94%
営業利益	コンシューマ	92	79	86%
	システム	▲9	0	-
	その他	0	1	-
	調整額	▲11	▲14	-
	合計	71	66	92%

- 対前年比減収、営業利益減益となったが上期計画比45%前後の進捗
経常利益は2倍超、当期純利益は74%と大幅増益
- 時計事業は大半の新製品投入が6月となった結果減収ながら、先行モデルG-STEELの好調により増益
- GAKUHAN事業は関数電卓を主軸に堅調
- システム事業は前期構造改革効果により赤字脱却

時計事業

- 売上は360億円(前年比9%減収)、利益率23%
上期の増収増益計画必達に向け新モデル第2四半期本格寄与
- 好調G-STEELの収益貢献大

教育事業

- 売上は193億円(前年比2%増収)、利益率6%

＜電卓:55%＞	関数電卓が牽引、前年比3%増収、利益率19%
＜辞書:25%＞	シニア向け製品が好調、前年比2%増収、収支均衡
＜楽器:20%＞	北米、国内、中国等の好調により前年比3%増収、 販促コストの先行により赤字8億円

デジタルカメラ事業

- 売上40億円(前年比20%減収)
開発コストの先行投入により赤字8億円

システム事業

- プリンター事業撤退により前年比5%減収ながら、損益は大幅改善

	<売上構成>	<損益>
・その他システム	: 約7割	+3億円
・プロジェクター	: 約3割	▲3億円

2018年3月期決算予測

6
単位:億円

連結	'17/2Q 計画	前年比	'17/上期 計画	前年比	'17/通期 計画	前年比
売上高	902	109%	1,600	102%	3,500	109%
営業利益	79	124%	145	108%	340	111%
利益率	8.8%		9.1%		9.7%	
経常利益	77	135%	135	164%	320	122%
当期純利益	53	134%	95	149%	225	122%
1株利益(円)	21.60		38.57		91.34	

セグメント別売上・営業利益

単位:億円

7

売上高	連結	'17/2Q 計画	前年比	'17/上期 計画	前年比	'17/通期 計画	前年比
	コンシューマ	797	115%	1,395	105%	3,020	111%
システム	83	78%	165	86%	390	98%	
その他	22	86%	40	90%	90	104%	
合計	902	109%	1,600	102%	3,500	109%	

営業利益	コンシューマ	101	127%	180	105%	405	109%
	システム	▲5	-	▲5	-	▲5	-
	その他	▲1	-	0	-	0	-
	調整額	▲16	-	▲30	-	▲60	-
	合計	79	124%	145	108%	340	111%

- 高価格帯G-SHOCKとOCEANUSの世界電波時計
(3WAY:GPS+電波+スマートフォンリンク)を本格展開
- 中価格帯ボリュームゾーンのスマートフォンリンクモデルを拡充
⇒G-SHOCK(G-STEEL)、EDIFICE、SHEEN
- 引き続き新製品モデルの積極投入(2Q:90モデル/下期:250モデル)
- G-SHOCK35周年
・G-SHOCK MovieのSNS活用による世界への拡散



G-SHOCK



G-SHOCK
(G-STEEL)



OCEANUS



EDIFICE



PRO TREK
Smart

【関数電卓】

- グラフ関数は英国、イタリア試験持込容認による販売拡大
- 重点国の拡大と国別専用カリキュラム対応強化
⇒ 新市場開拓と偽物駆逐
- 自動組立ライン導入(カシオタイ工場)



【電子辞書】

- 英会話学習ツールの下期新製品投入
- シニア向け拡販強化



【PA】

- 差別化された強いハードウェアの展開強化
Android搭載端末(IT-G400)を7月から出荷



【SA】

- 中小企業／個人事業主の役に立つソリューション展開強化
クラウドを活用したランニングビジネスの開始



新規事業(2.5Dプリンター)

11

■2.5Dプリントテクノロジー

- ・デジタルシート(伸縮可能なポリオレフィン素材の開発)
- ・電磁波造形技術



- ## ■繊細な凹凸でさまざまな素材の表面を忠実に表現 (1,000万色、同一面上に複数の触感を出力)



■サンプル試作の自由度向上

⇒開発期間の劇的短縮と開発費用の大幅削減

■サンプル用途だけでなく、実用にも対応できる品質確立

⇒量産による市場規模拡大



■用途例

- | | | |
|----------|----------|--------------|
| ・自動車製造関連 | ・建材内外装関連 | ・アパレル・シューズ関連 |
| ・印刷会社 | ・デザイン会社 | ・家電等パッケージ関連 |

【山形カシオ】（2017年7月着工2018年5月稼動、投資額20億円）

■時計差別化技術戦略強化

- ・部品（針、外装関連等）事業の要素技術開発強化
- ・部品～完成品までの一気通貫型の組織と工程実現による生産効率向上

■マザー工場としての活用拡大

- ・全品目のマザー工場機能確立
- ・海外拠点の自動化推進に向けたライン、自動機開発
- ・CAD設計による生産工程、設備工程効率化強化



為替影響について

<ご参考①>

為替感応度 (主要通貨)

米ドル
ユーロ
人民元

為替前提

(2017年7月～
2018年3月)

113円
118円
16.3円

1円変動による影響額(年間)

売上高	営業利益
10億円	—(※1)
3.5億円	2.5億円
18億円	12億円

※1 ドル円は輸出・輸入がほぼ均衡しており影響軽微

為替レート実績 (前年差)

米ドル
ユーロ
人民元

第1四半期

111.1円(+2.9円)
122.2円(+0.1円)
16.2円(-0.3円)

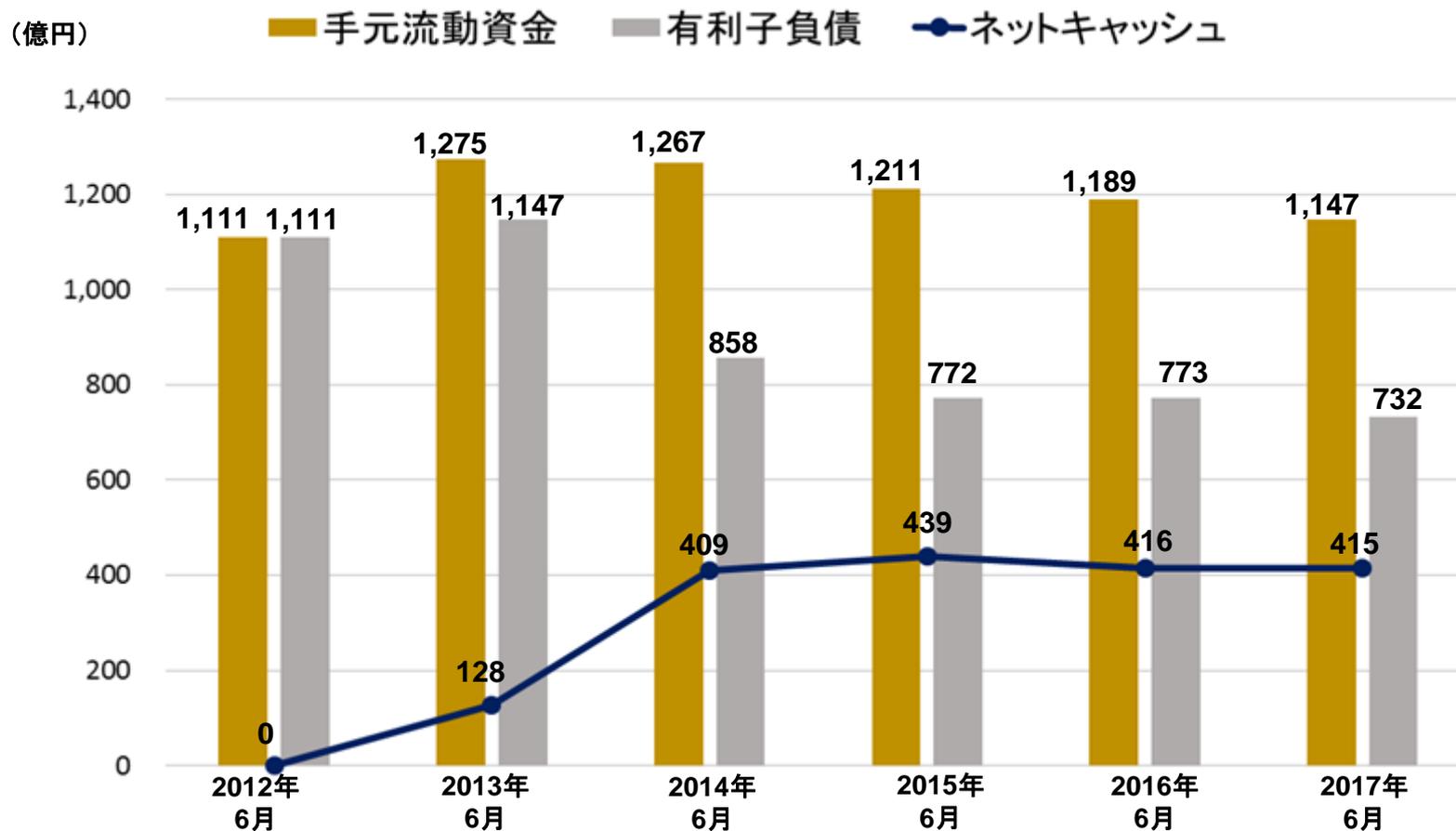
為替影響額(対前年) (含むその他諸通貨)

売上高
営業利益

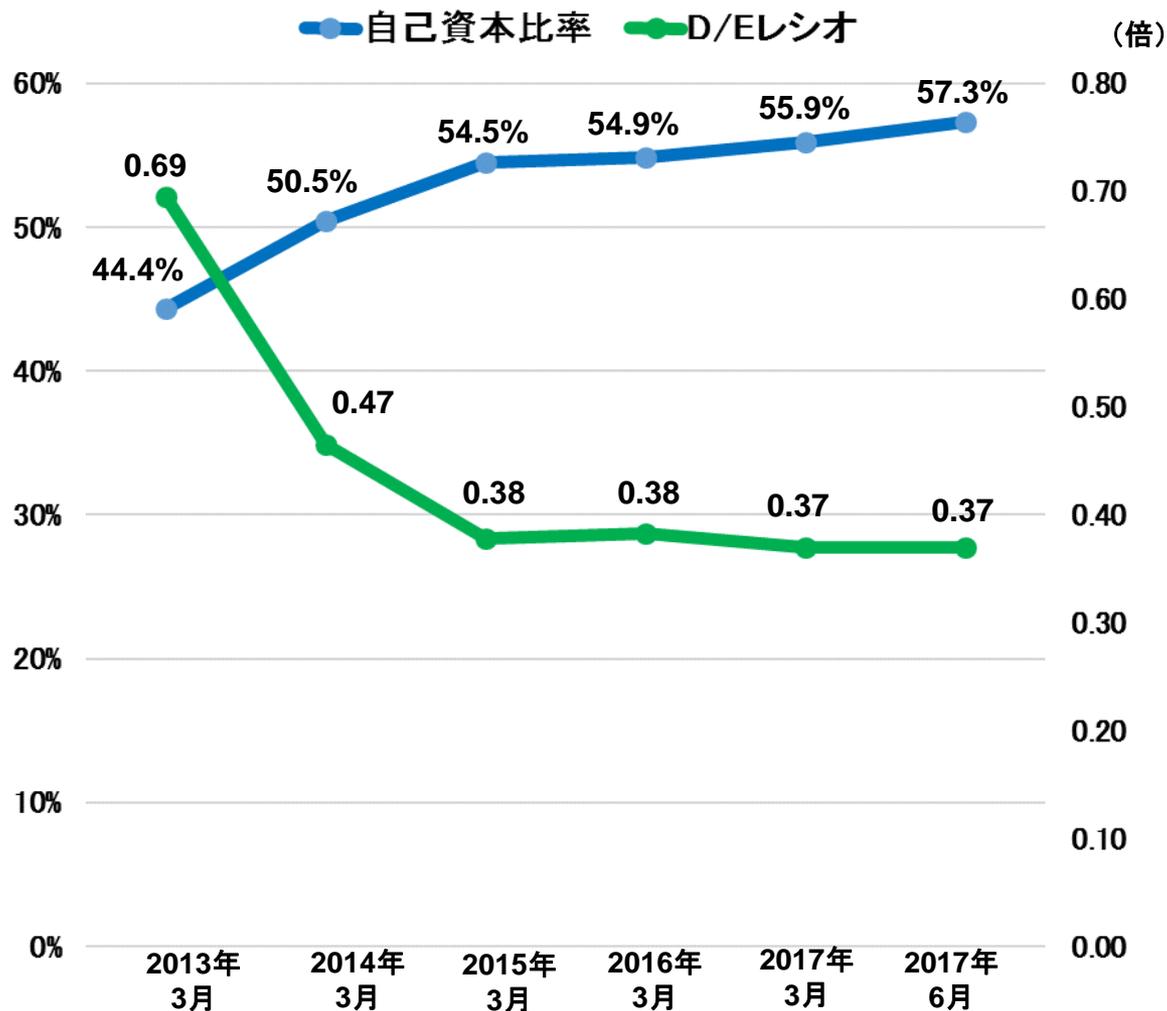
第1四半期

⊕ 4億円
-

■手元流動資金・有利子負債・ネットキャッシュ(第1四半期対比)



■ 自己資本比率・D/Eレシオ



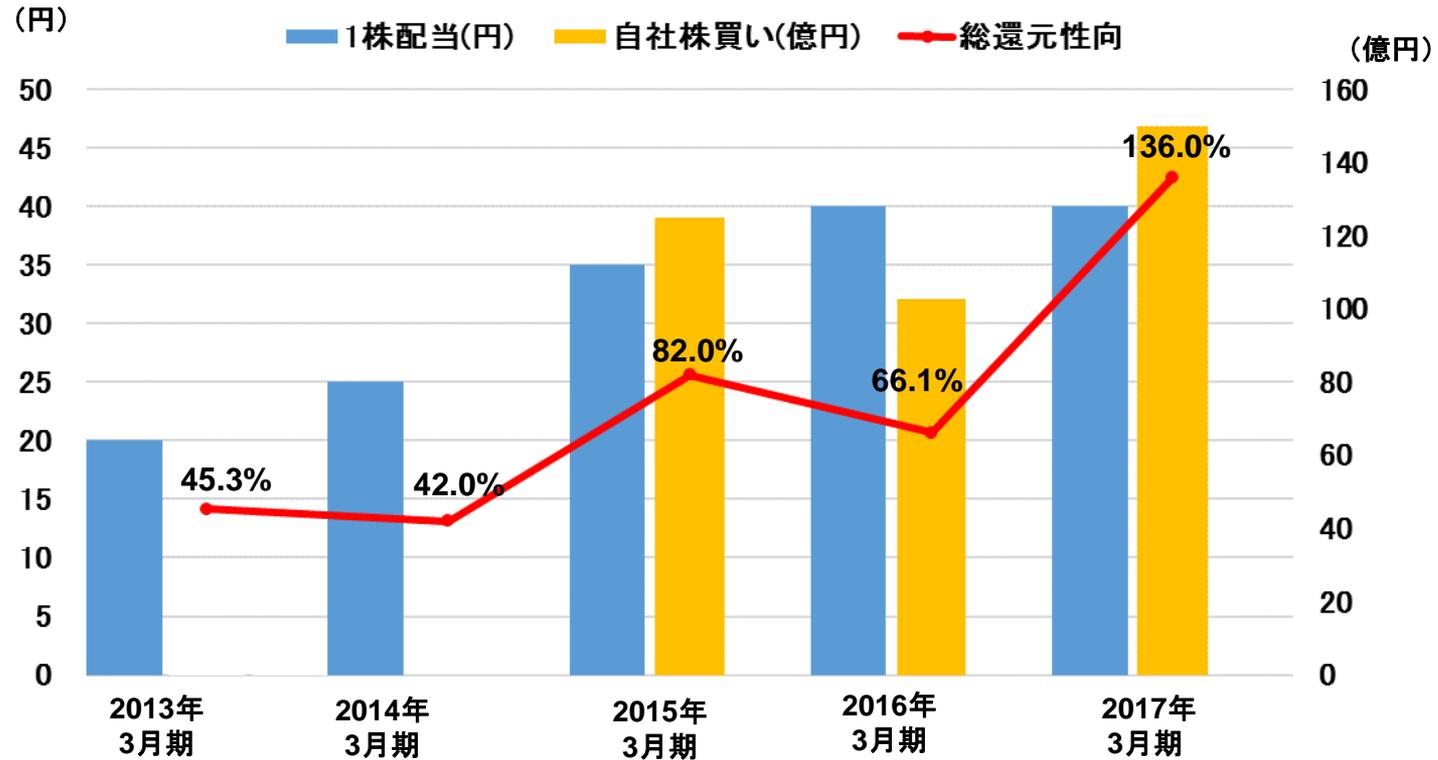
■年金財政

・年金財政は積立超過(財政健全化)を維持

	2015年3月	2016年3月	2017年3月
年金資産	714億円	653億円	693億円
退職給付債務(A)	585億円	576億円	567億円
積立超過額(B)	+129億円	+78億円	+126億円
超過割合(B÷A)	+22%	+14%	+22%
電機・精密29社平均	▲24%	▲30%	(▲27%)

(1社未計上)

■ 1株配当・自社株買い・総還元性向



- ・配当は安定配当をベースに業績とのバランスを考慮しつつ前向きに検討の方針
- ・自社株買いは市場環境等に応じて柔軟かつ機動的に対応

END